



「頭の柔軟体操」～“ユーモア・ウィットの威力”をどうぞ！

人間考学を究めんとされる永遠の学徒、渡辺明・九州工業大学名誉教授にご登場いただいて、表題のシリーズをお届けします。

柔らかくほぐされた頭脳から、素敵な夢アイデアが誕生しますように！（コラム担当 T 生）

第 19 回

原点回帰 (No.10)

平成 27 (2015) 年 1 月

「人間は出番で鍛えられて成長するのだから、授業や集団活動その他において指名され、出番が与えられる回数の多い順に成長する。つまり、アイウエオ順や ABC 順に出世する」というユニークな論理を開陳したのは、筆者が九工大で長年教育戦線を共にした、敬愛する I 助教授であった。

それを検証すべく、早速歴史をめぐってみたところ、
天野貞祐、伊藤博文、内村鑑三、江藤新平、大久保利通
Archimedes, Beethoven, Caesar, Darwin, Elizabeth
などと瞬時に著名人がアイウエオ順、ABC 順に並び、本理論の妥当性が概ね実証されたのだった。

ところで、昵懇工藤矩弘氏から次の様な話も伺った。

「五高を出て東大に進まれた G 氏は在学 1 年足らずで戦争に駆り出されて軍籍に入れ、試験で選抜された 60 名の中にリストアップされ、その中の上からと下から 1 名ずつの 2 名編成で、『特攻機乗員』30 組が決定されたのだという。そして、29 番目にランクされていた G 氏は『明日が出撃』という前日に突然の作戦中止命令が出て（沖縄陥落のため）、九死に一生を得られた」のだそうである。つまり、成績が中位であったばかりに命拾いをされた訳である。

さて、昭和 28 年、筆者が夏休みのアルバイトで宮崎市大淀川河口の水深調査（建設省）をやった折のことである。河口から沖に向かって 2km に亘り、確か 30m 毎に測定する作業で、焼玉エンジン搭載の小さな舟に 2 人ずつ乗って、紐付きロッドを海中に落とし込みながら実施したのであった。

沖へ 1km も進んだ頃であったろうか、突如エンジンが停止し、あらゆる試行も空しく、復調しなかったのである。沖は、「1 に玄海、2 に遠江、3 に日向の赤江灘」といわれる、名にし負う荒海のこと、推力を失った舟は沖へ流され続け、やがて木の葉の様に翻弄され、「もはやこれまで」と観念した矢先、何と助け舟が現われたのであった。

後で判ったことだが、実は河口の工事事務所の某職員が対岸のアベックを覗き見ようとトランシットを構えていて、偶々横に振ったその視野の中に筆者らの舟が入り、「動きがおかしい」ということになったのだという。職員の助平な覗見がもしなかったら、舟もろともに間違いなく赤江灘の藻屑と消えていた訳で、生死紙一重の人生が改めて不可思議に思えてくる。

嘗て、田端義夫が「いろんな理由で生と死に分けられ、偶々僕は生き残ったのだ」と語っていたが、「神様の落書き」ともいわれる人生の「この日・この時」を我々は粛々と刻んでゆくしかあるまい。

一寸先は闇なれど「人生万事塞翁が馬」、若人よ。希望を失わず、夢をいだいていい人生を

渡辺 明 九州工業大学名誉教授
夢アイデア審査委員会 初代（平成 14 年～17 年）委員長